

参考見積募集要領

次のとおり参考見積を募集します。

令和8年9月18日

独立行政法人水資源機構

木曽川上流ダム総合管理所長 中野 春男

1. 目 的

この参考見積の募集は、木曽川上流ダム総合管理所で予定している「岩屋ダム利水放流設備整備検討業務」の積算の参考とするための参考見積を募集するものです。

2. 参考見積書提出の資格

- (1) 水資源機構における令和7・8年度一般競争（指名競争）参加資格業者一般競争（指名競争）参加資格業者のうち、測量・建設コンサルタント等の業種区分の「土木関係建設コンサルタント業務」の認定を受けていることとします。
- (2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 水資源機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成6年5月31日付け6経契第443号）に基づき、木曽川水系及び豊川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は、次に従い提出してください。

- (1) 参考見積書は、作業項目毎に必要な技術者の人数等を記載して提出してください。
なお、参考見積書の様式は問いません。
- (2) 提出期間：令和8年10月23日（金）から令和8年11月13日（金）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前9時から午後5時まで
- (3) 提出先
独立行政法人水資源機構 木曽川上流ダム総合管理所長 中野 春男 宛
【担当】総務課 森
〒509-7202 岐阜県恵那市東野字花無山2201-79
TEL：0573-25-5295 FAX：0573-25-9221
- (4) 提出方法
書面は持参、郵送又はFAX（社印があること）により提出するものとします。
なお、「参考見積書」に本件責任者及び担当者の氏名や連絡先の記載がある場合は、社印は不要とします。
- (5) 見積有効期限等
令和10年3月31日までとしますが、この有効期限で見積が困難な場合は、見積可能な有効期限とします。

4. 参考見積内容

(1) 参考見積内容

別添「岩屋ダム利水放流設備整備検討業務 見積仕様書」のとおり。

(2) 業務費の構成と歩掛見積徴取範囲

- ① 本歩掛参考見積を適用する業務費の構成は、当機構が別に制定する「積算基準及び積算資料（機械編）」（以下、「基準書」という。）によるものとします。
- ② 歩掛参考見積徴取範囲は基準書で定義されている直接人件費のうち、別紙「見積仕様書」の業務を実施するために必要な技術者の人数等を徴取します。

(3) 技術者の職種と定義

国土交通省が公表している「令和8年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分定義」によるものとします。

5. 募集要領に対する質問

この募集要領に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

- (1) 提出期間：令和8年9月24日（木）から令和8年10月15日（木）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前9時から午後5時まで
- (2) 提出先：3. (3) に同じ。
- (3) 提出方法：3. (4) に同じ。

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

- (1) 閲覧期間：令和8年10月23日（金）から令和8年11月13日（金）まで
- (2) 閲覧方法：ホームページに掲載します。

7. 参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とします。

8. ヒアリング

提出していただいた参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

9. その他

この参考見積書をご提出いただいたことで、業務の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、業務積算の目的以外には使用いたしません。

別添

岩屋ダム利水放流設備整備検討業務

見 積 仕 様 書

令和8年9月

独立行政法人水資源機構
木曽川上流ダム総合管理所

第1章 業務内容

第1節 業務目的

本業務は、岩屋ダム利水放流設備の機能維持を目的として、利水放流設備主副ゲート及び付属設備の整備を行うにあたり、安全性、信頼性、経済性及び維持管理性等を考慮し、最適な整備に関する設計及び施工計画の立案を行い、整備工事実施のために必要な資料作成を行うものとする。

第2節 設計条件

1-1 設計条件等

1. 既設設備の仕様一覧は、別紙-1による。
2. 施工計画・工事工程計画の検討にあたっては、洪水期（6月16日～10月15日）の期間を避けて現場作業を行うことを基本とするが、出水時の操作に影響を受けない作業についてはこの限りではないものとする。また、4月、5月の降雨による出水を考慮し、現場作業期間が最短となるよう施工計画を立案するものとする。
3. 本節に記載していない設計条件、構造細目等については、適宜調査職員に確認の上、検討・設計を進めるものとする。

第3節 業務内容

3-1 業務範囲

業務範囲は、次表のとおりとする。

項 目	業 務 内 容
設 計 計 画	・業務方針の立案 ・業務計画書の作成 ・資料収集、設計条件の整理
現地踏査	・現地踏査
基 本 事 項	・基本事項の整理 ・整備内容の検討決定
詳 細 事 項	・整備内容等の主要仕様決定 ・施工方法の検討決定 ・導水路止水方法の検討決定 ・輸送方法の検討
設 計 計 算	・設計計算書 ・材質・部材の検討決定 ・装置・諸元の検討決定 ・施工計画・工事工程計画・仮設計画の作成 ・特記仕様書（案）の作成
設 計 図	・全体配置図（一般図、平面図） ・各部整備図 ・仮設図

数 量 計 算	・主要部材料数量表（内訳書、集計表） ・塗装面積表（内訳書、集計表） ・機器数量表（規格、容量・重量） ・撤去品数量表（内訳書、集計表） ・仮設材数量表（仮設材、使用機械等）
照 査	・照査
概算工事費	・概算工事費の算出
報告書作成	・本業務内容のまとめ

3－2 設計計画

1. 業務の目的、主旨を把握した上、設計図書に示す業務内容を確認し、共通仕様書第1章第12節に示す事項について業務計画書を作成し、調査職員に提出するものとする。
2. 設計・検討に先立ち、参考となる類似工事等の資料、新技術等の資料について収集するものとする。
3. 設備の運用状況、設置目的、経緯及び既設設備の課題等について整理検討し、設計に反映するものとする。

3－3 現地踏査

現地踏査を実施し、設備状態や土木構造物、周辺環境、施工上の支障物等について十分に確認を行うものとする。

3－4 基本事項

1. 基本事項の検討にあたっては、設備の安全性、信頼性、経済性、維持管理性、施工性、工期、既設設備の運用状況及び関係機関との調整等を考慮し、以下に示す検討内容に沿って行うものとする。

設 備 名	項 目	検 討 内 容	備 考
利水放流設備	主ゲート	油圧シリンダ分解整備	
		扉体シートリング整備	
	副ゲート	油圧シリンダ分解整備	
	充水主・副バルブ	バルブ・配管整備	
	ドレン主・副バルブ	バルブ・配管整備	
	差圧計バルブ	バルブ・配管整備	
	利水放流管	劣化部及び発錆部補修	
	その他	騒音低減対策	

2. 主・副ゲート設備の油圧シリンダ分解整備の検討にあたっては、工場整備案及び現場整備案の両案について比較検討を行うものとする。
3. 主ゲート設備の扉体シートリングに経年使用による進行性の孔食が発生しており、孔食部を安全性、信頼性、経済性及び維持管理性に優れた補修・整備方法の比較検討を行い、必要な整備内容を検討決定する。
4. 充水バルブ、ドレンバルブ及び差圧計バルブについて、取替整備を検討する。
5. 利水放流管路においては、コンクリートの一部劣化や鉄管内の発錆が確認されており、水中点検業務報告書等の貸与資料をもとに、補修範囲の確認を行い、腐食部の補修方法の検討（塗替塗装、金属補修等）を行うものとする。

6. 利水放流設備による放流中には、100 dB を超える騒音が発生する。過去の放流試験報告書等の貸与資料をもとに、空気管呑口部改造等による騒音低減対策を検討するものとする。
7. 各検討内容について、安全性、経済性、保守性、既設土木構造物や取水への影響など多角的に検討し、実現可能な最適案を選定する。

3-5 詳細事項

1. 基本事項を基に、既設の周辺機器等の設置状況、取り合い、維持管理性を考慮した上で、整備の主要仕様、施工方法を決定するものとする。
2. 選択取水塔から利水放流設備副ゲート上流側には、制水ゲートや仮締切設備といった止水施設がないため、整備に伴い導水路内をドライにして施工を行う場合は、貯水位低下や仮締切設備の製作・据付による止水等を検討するものとし、止水に伴う中部電力の発電取水や貯水池運用への影響を確認するものとする。
3. 工場整備の検討にあたっては、利水放流設備下流にある 2 号仮排水路トンネルによる輸送の可否等、輸送方法の検討及び立案を行うものとする。なお、輸送が不可能な場合は現場整備に必要な施工計画を立案すること。
4. 仮締切設備による止水を行う場合は、2 号導水路の仮締切を想定するものとし、可能な限り 1 号導水路の発電取水に影響がないように検討を行うものとする。

3-6 設計計算

1. 基本事項、詳細事項の検討結果を基に、設備の設計計算、各部材等の比較検討を行い、部材寸法、使用材料、使用機器等を選定する。
2. 新たに設計計算を行うものについては、現行の技術基準に基づき設計条件等の必要項目を設定するものとし、調査職員の承諾を得るものとする。なお、現行の基準によることができない場合については、調査職員と打合せの上、適用する基準を決定し、適用した設計基準について設計内容毎に整理するものとする。
3. 施工計画、工事工程計画の作成にあたっては、原則週休 2 日制の現場施工を行うものとし、止水が必要な場合は、導水路の止水期間が極力短くなるように計画するものとする。
4. 輸送計画（荷姿図含む）、仮設計画等を含む仮設計画を作成し、概要を施工ステップ図にまとめるものとする。
5. 本業務の成果を基に、整備工事の特記仕様書（案）を作成するものとする。
6. 本業務の成果を基に、工事発注をするにあたり必要となる見積仕様書（案）を作成するものとする。見積仕様書（案）には、見積もりに必要な条件、図面等を添付し、適切な見積もりが可能となるよう整理するものとする。

3-7 設計図

設計計算の結果に基づき全体配置図（一般図、平面図）、各部整備図、仮設図（重機配置図、仮設足場図等）及び仮設施工手順書を作成するものとする。

3-8 数量計算

1. 設計計算及び設計図に基づき使用材料、機器・部品、使用機械、仮設材、重量等の数量（撤去及び据付（撤去についてはスクラップ種類毎に区分））を算出するものとする。また、算出根拠の詳細資料を添付するものとする。
2. 数量表は、表計算ソフト（Excel）によるものとし、納品する電子成果には、計算リンクがされた数量表を納品するものとする。

3-9 照査

1. 基本事項の照査は、「詳細設計照査要領(令和4年3月：国土交通省)」に基づき実施するものとし、基本事項の決定に際し、発注者の提示した条件及び現場条件が反映されているか確認を行うものとする。
2. 設計方針、設計手法及び施工計画が適切であるかの照査を行うものとする。
3. 設計計算、設計図、数量計算の適切性及び整合性に着目し照査を行うものとする。

3-10 概算工事費

概算工事費算出は、機構の積算基準に基づき算出するものとする。なお、算出にあたり機器見積を収集する場合は、納期を含めて確認するものとする。

3-11 報告書作成

受注者は、共通仕様書第1章第17節及び第2章第11節に準じて報告書の作成を行うものとする。

第4節 業務上の留意事項

1. 本業務は、工事発注に必要な設計図書等の資料を作成するものであることを十分理解し、手戻りのないよう業務の履行にあたらなければならない。
2. 設計にあたっては、社会的条件・維持管理・施工性・安全性・経済性（ライフサイクルコスト）等について十分考慮しなければならない。
3. 設計に適用した基準及び貸与資料等の「出典先」を報告書に記載するとともに、引用ページの記載及びコピーを添付するものとする。
4. 構造計算にあたっては、適応基準、設計条件、計算式及び計算結果等が確認できるよう整理するものとする。
5. 工事施工に伴い各種届け出等が必要な場合は、必要な資料や届け出を整理し、報告書にとりまとめるものとする。
6. 施工上の留意事項がある場合には、報告書にとりまとめて記載するものとする。

— 以 上 —

別紙－１ 岩屋ダム利水放流設備仕様一覧表

設 備 の 名 称		利 水 放 流 設 備	
ゲ ー ト の 名 称		放 流 管 ゲ ー ト	
場 所	水系名・河川名	木 曽 川 水 系 ・ 馬 瀬 川	
	地 名	岐阜県下呂市金山町乙原地内	
完 成 年 月		昭 和 ５ １ 年 ３ 月	
門 数		各 １ 門	
バル ブ 本	バルブ型式	(主) ジェットフローゲート	(副) リングホロワゲート
	口 径	φ 1, 8 6 0	
	水 密 方 式	前面水密	後面水密
開 閉 装 置	開 閉 方 式	油圧シリンダ式	
	開 閉 速 度	0. 2 m / m i n	
	揚 程	2. 0 6 m	2. 0 5 m
	操 作 方 式	遠方及び機側操作	機 側 操 作
	動力	電動機 11 kW×2 台, 油圧ポンプ×2 台 吐出量 26. 1 L / m i n, 圧力 14 M p a	
付 属 設 備	充 水 バ ル ブ	(主) 電動スルースバルブ 1. 9 6 M p a × 1 台, (副) 手動スルースバルブ 1. 9 6 M p a × 1 台	
	排 気 バ ル ブ	手動スルースバルブ×1 台	
	ドレンバルブ	(主) 電動スルースバルブ 1. 9 6 M p a × 1 台, (副) 手動スルースバルブ 1. 9 6 M p a × 1 台	
塗 装 仕 様	主・副ゲート	外面：エポキシ樹脂系, 内面：タールエポキシ樹脂系	
	油圧ユニット	エポキシ樹脂系	
	付 属 設 備	タールエポキシ樹脂系	

岩屋ダム利水放流設備整備検討業務

参考図

独立行政法人水資源機構

木曽川上流ダム総合管理所

岩屋ダム利水放流設備整備検討業務 図面目録

番号	図面名称
1	ダム発電所水路平面図
2	2号導水路縦断面図
3	選択取水塔一般図
4	2号仮排水路縦断面図
5	利水放流管路詳細図
6	利水放流設備配置図
7	放流管ジェットフローゲート構造図
8	放流管ジェットフローゲート開閉装置組立図
9	放流管リングホローゲート構造図
10	放流管リングホローゲート開閉装置組立図
11	充水バルブ構造図
12	ドレンバルブ配置図
13	差圧計バルブ配置図

岩屋ダム（東仙金山湖）

馬瀬川第2ダム

1号導水路

2号導水路

2号仮排水路 総延長 690944 トンネル延長 658.944

1号仮排水路 総延長 964818

トンネル延長 749818

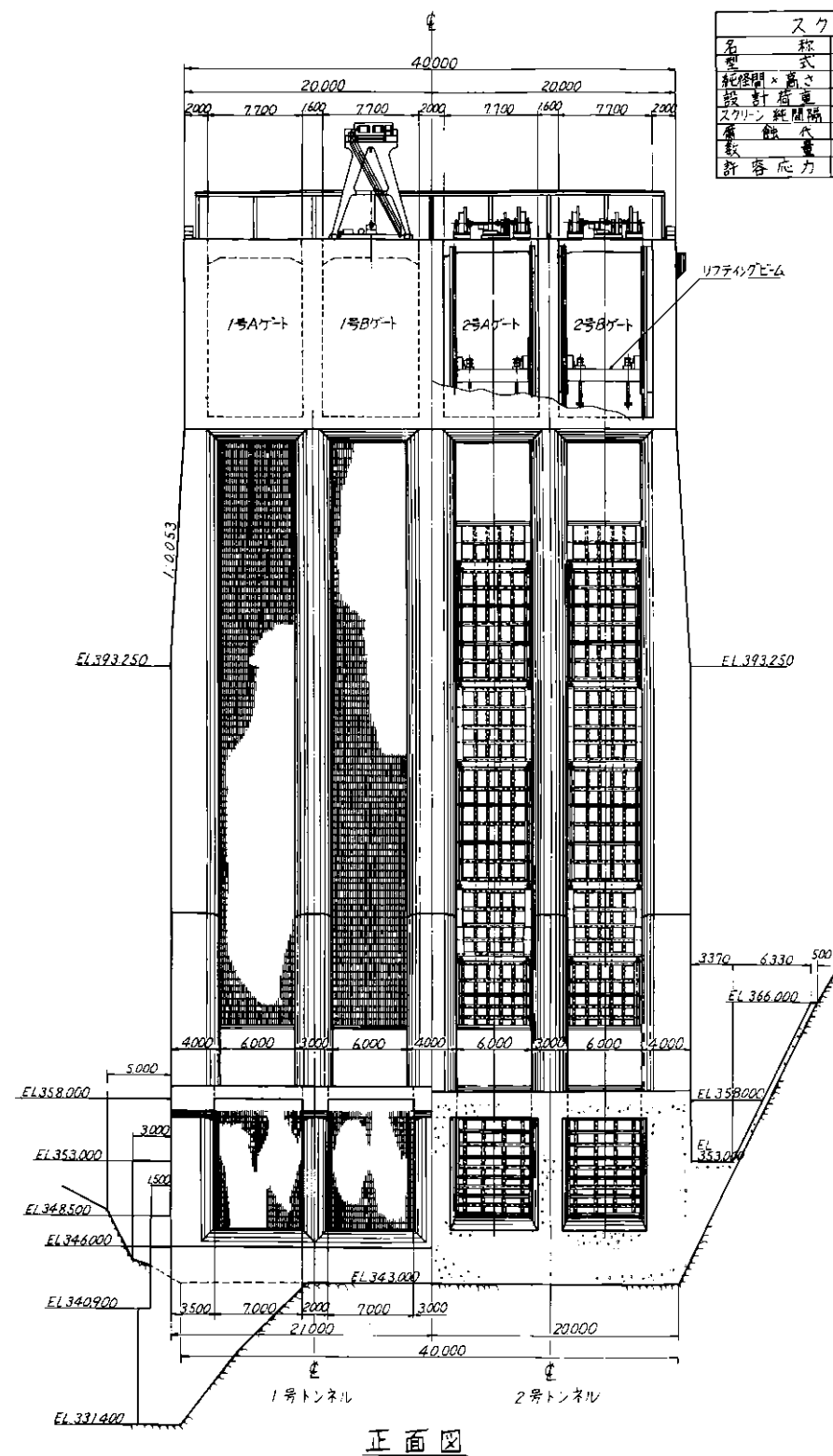
選択取水塔

利水放流管

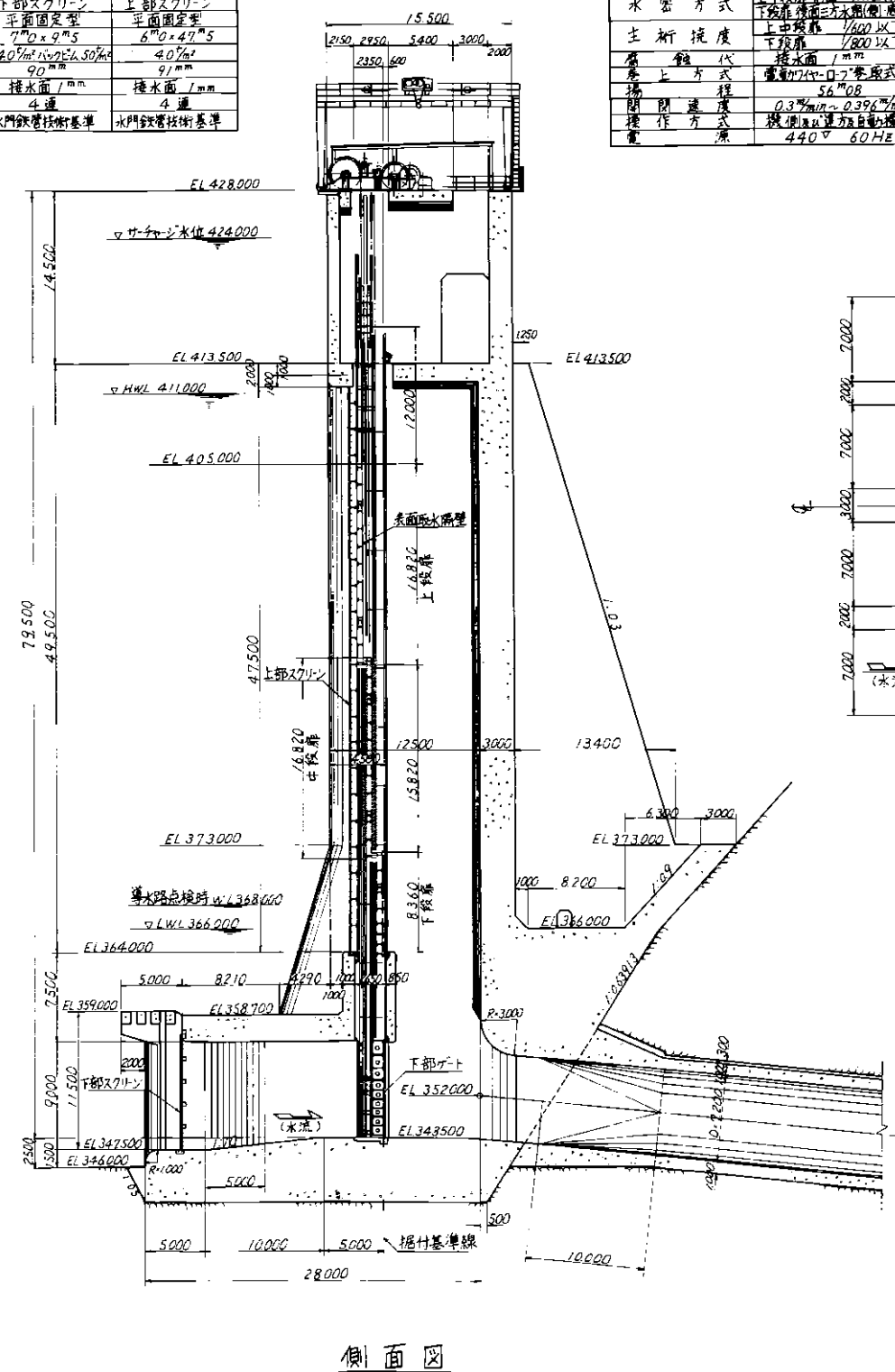
利水放流管分岐点

利水放流設備

ダム発電所水路平面図

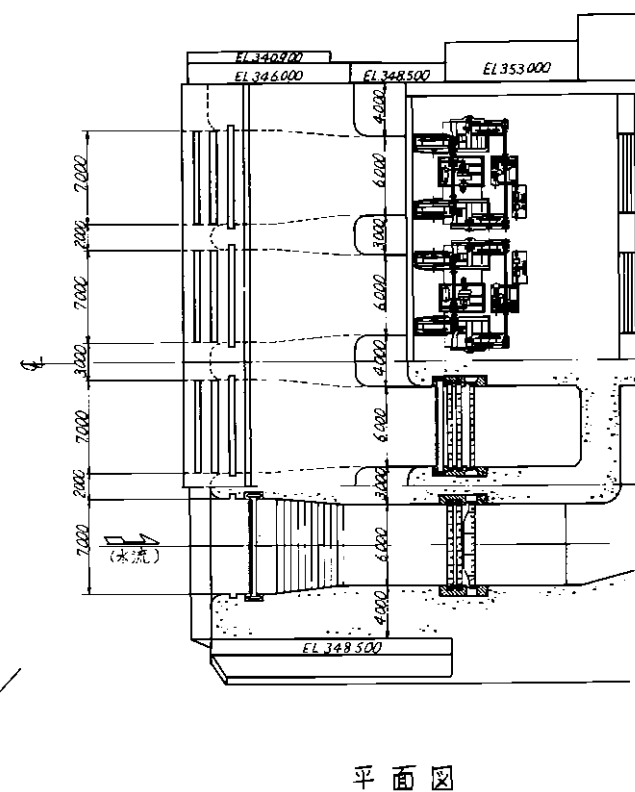


スクリーン要目表			
名称	下部スクリーン	上部スクリーン	
型式	平面固定型	平面固定型	
純体開口高さ	7'0" x 9'5"	6'0" x 4'5"	
設計荷重	4.0 ^{mm} /m ² バネ50 ^{mm} /m ²	4.0 ^{mm} /m ²	
スクリーン純間隔	90 ^{mm}	91 ^{mm}	
腐蝕代	接水面1 ^{mm}	接水面1 ^{mm}	
数量	4通	4通	
許容応力	水門鉄骨技術基準	水門鉄骨技術基準	



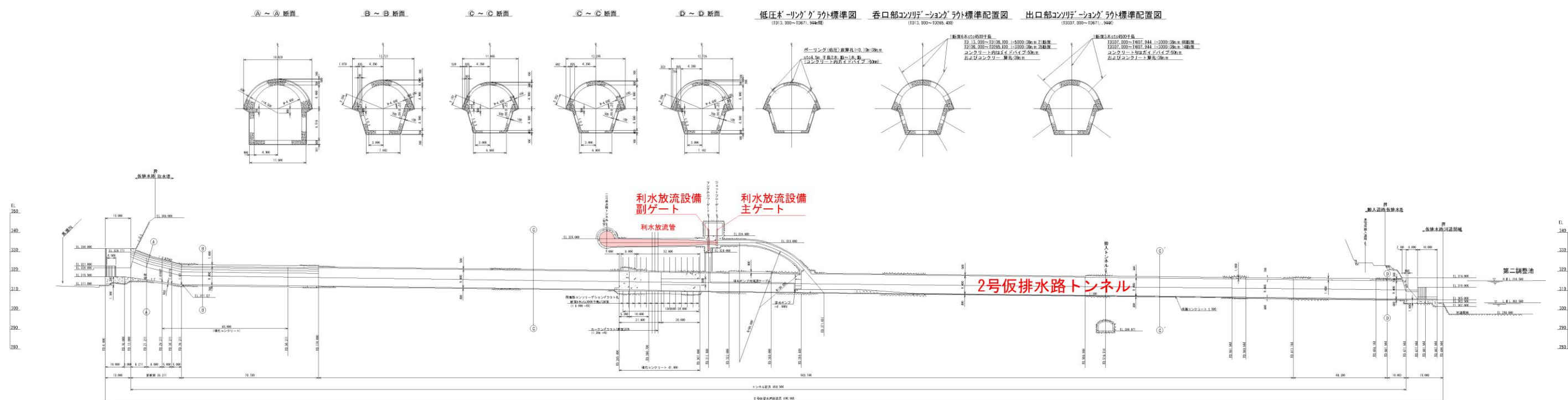
表面取水隔壁要目表	
型式	鋼製3段式ローラゲート
開口数	4門
純体開口高さ	6'0"
純体開口幅	4'7"5"
設計荷重	2.5 ^{mm} /m ² (正圧及逆圧)
操作荷重	1.0 ^{mm} /m ²
水密方式	上中板前部=方水密(側部) 下板前部=方水密(側部)
主桁強度	上中板前部 1/800以下 下板前部 1/800以下
腐蝕代	接水面1 ^{mm}
操作方式	電動ワイヤロープ式
開閉速度	0.3 ^{mm} /min ~ 0.39 ^{mm} /min
操作方式	検測及遠方自動操作
電	440V 60Hz

下部ゲート要目表	
型式	鋼製ローラゲート
開口数	4門
純体開口高さ	6'0"
純体開口幅	8'0"
設計荷重	1.9 ^{mm} /m ²
操作荷重	1.0 ^{mm} /m ²
水密方式	後面四方水密
主桁強度	1/800以下
腐蝕代	接水面1 ^{mm}
操作方式	電動ワイヤロープ式
開閉速度	0.23 ^{mm} /min ~ 0.337 ^{mm} /min
操作方式	検測及遠方操作
電	440V 60Hz



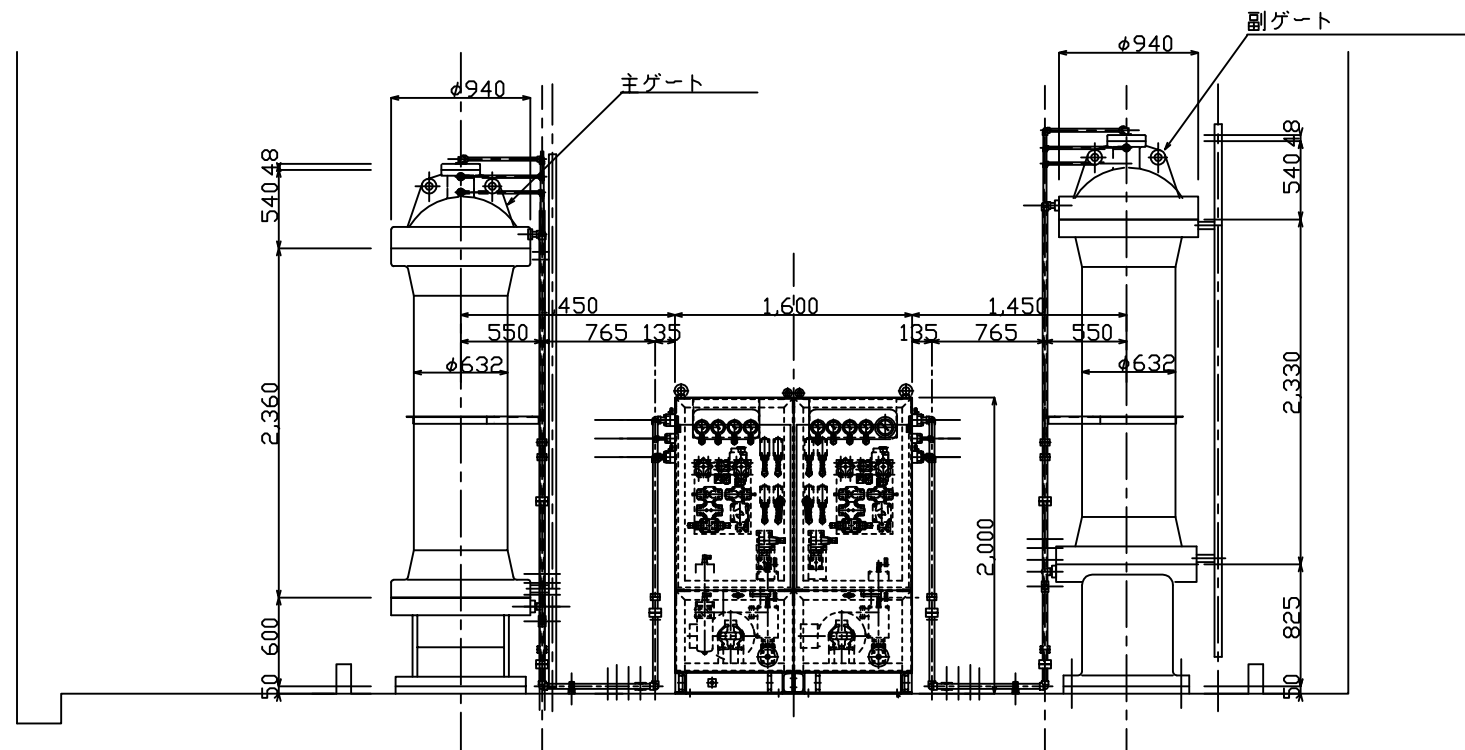
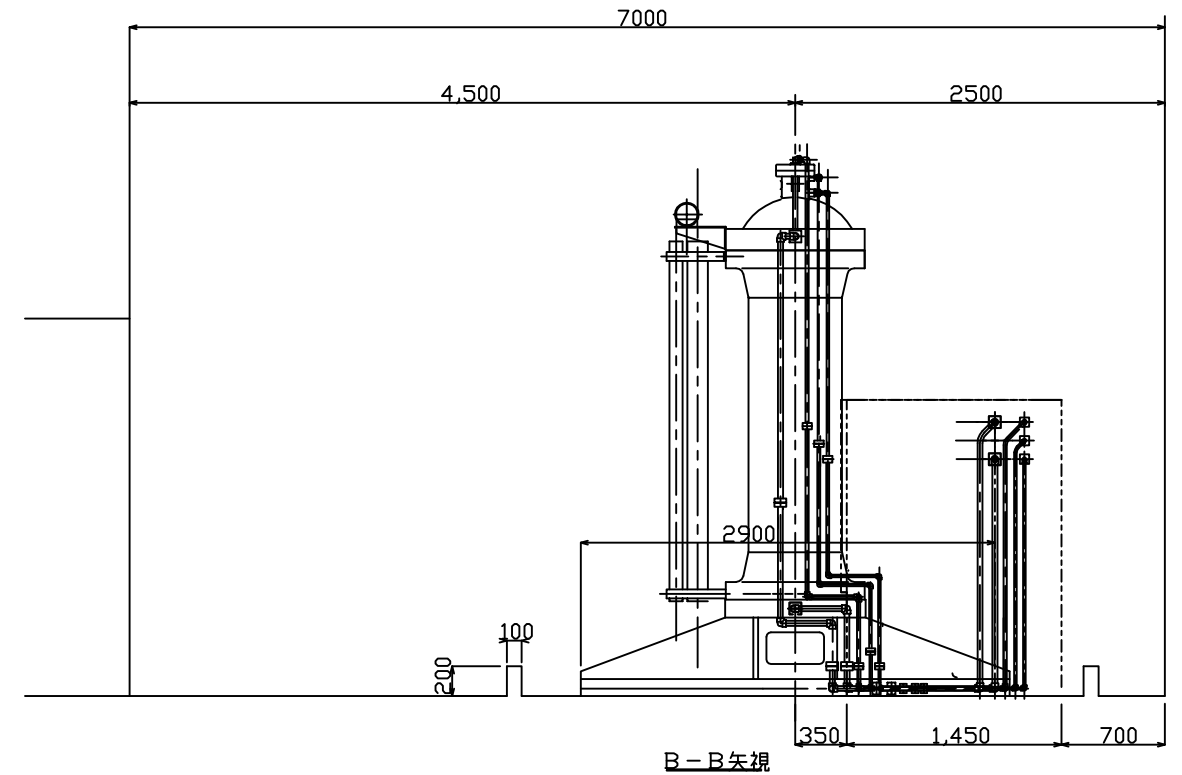
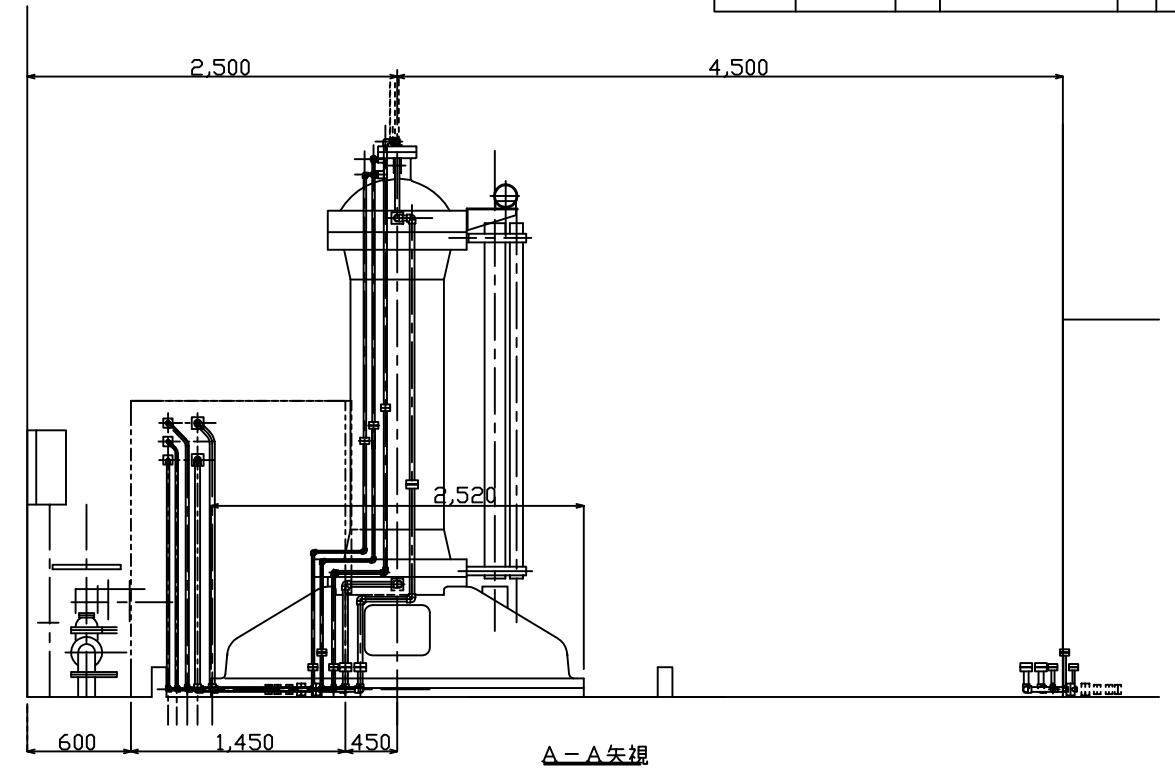
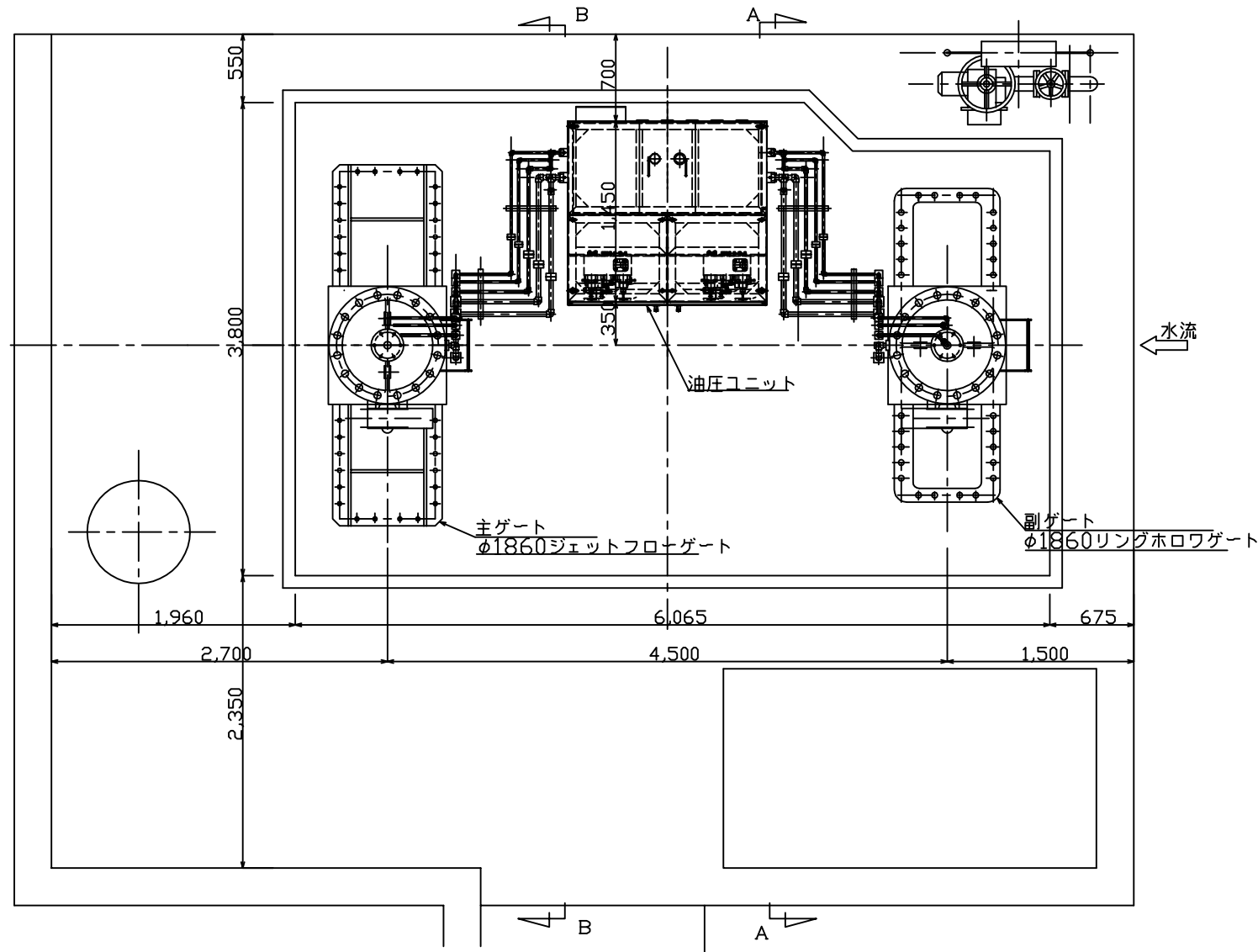
0 10m

選択取水塔一般図

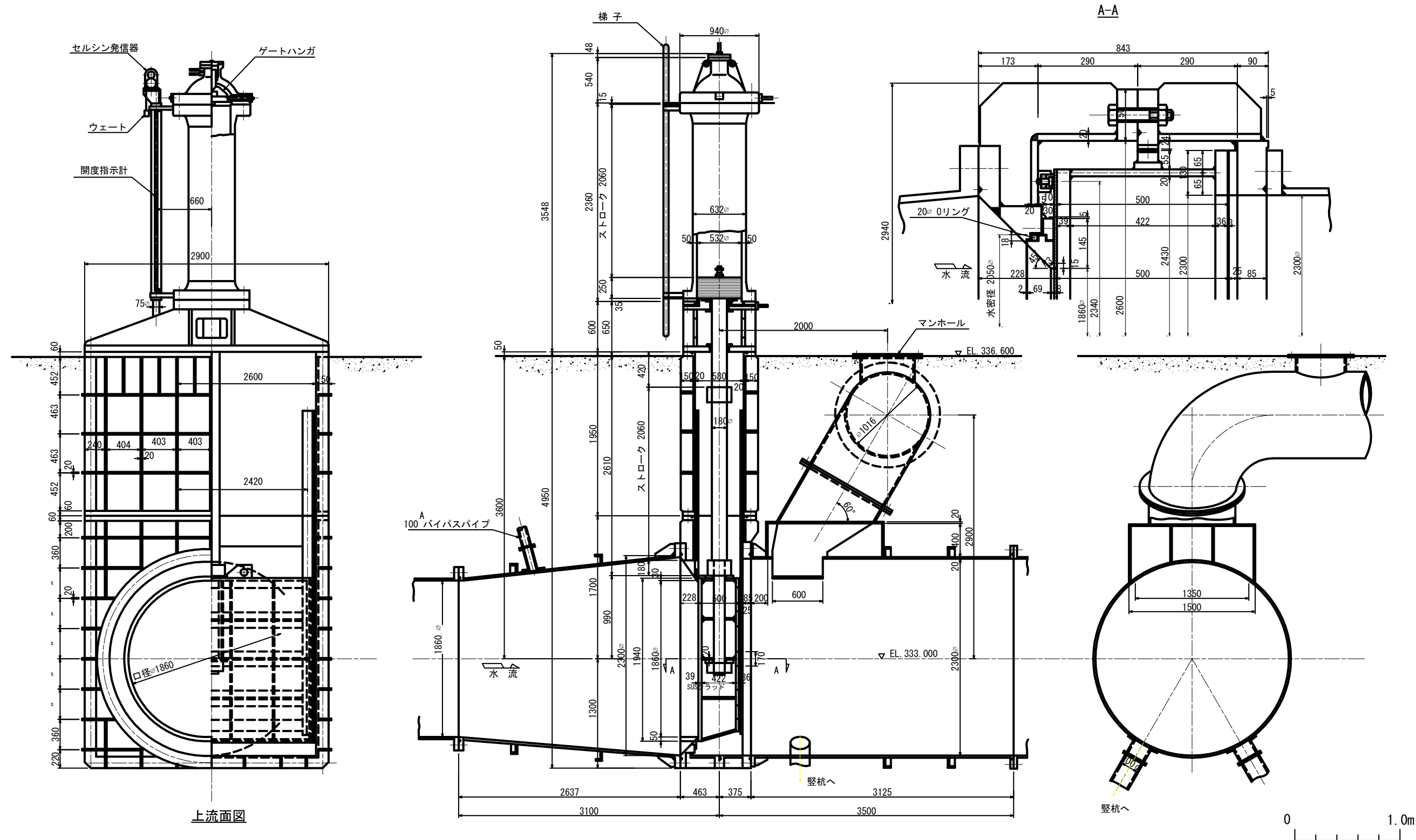


2 号 仮 排 水 路 縦 断 面 図

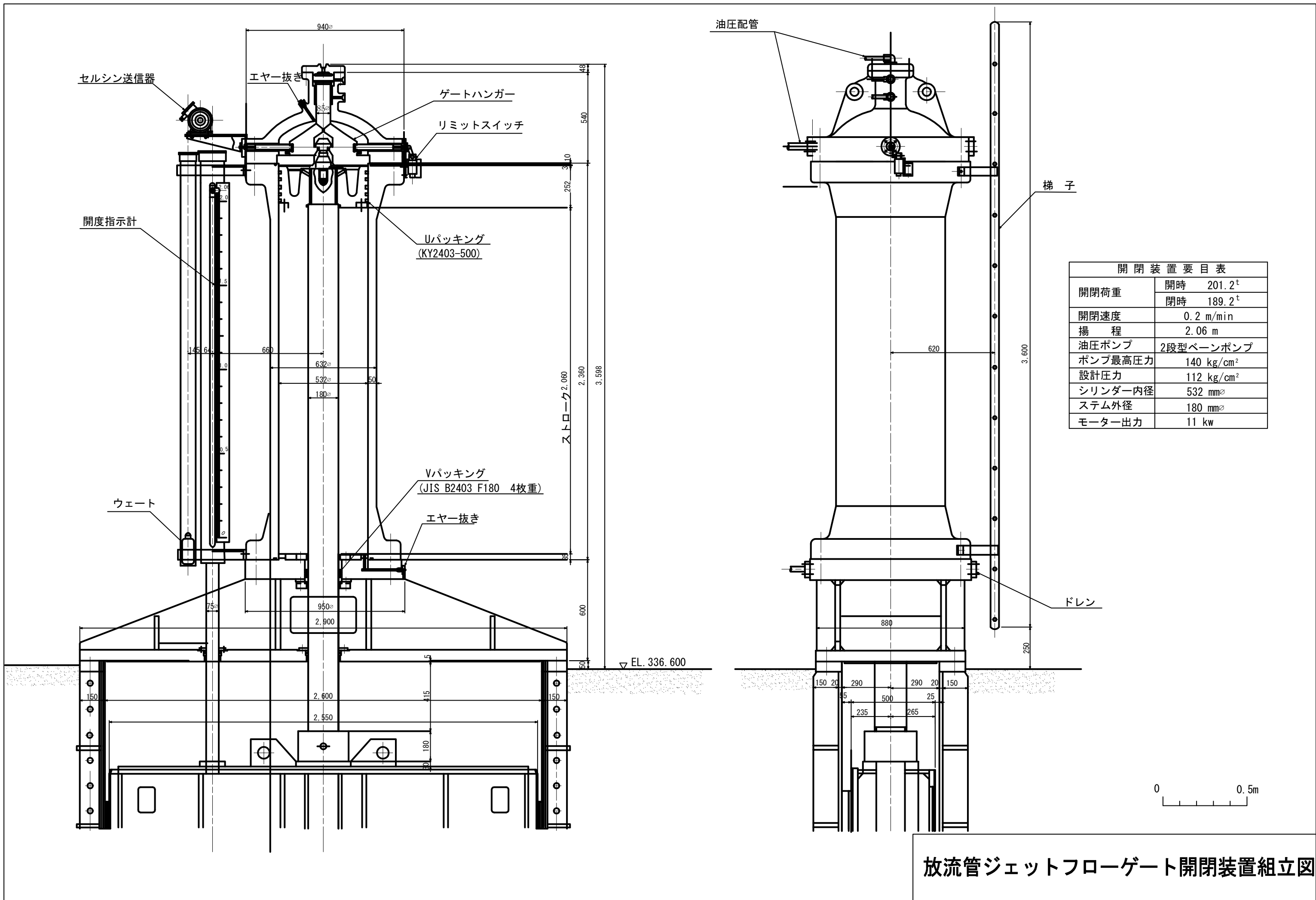
注 番	注 文 主 製 作 数	摘 要	年 月	NO.
G01-5139	1式		02/01	001

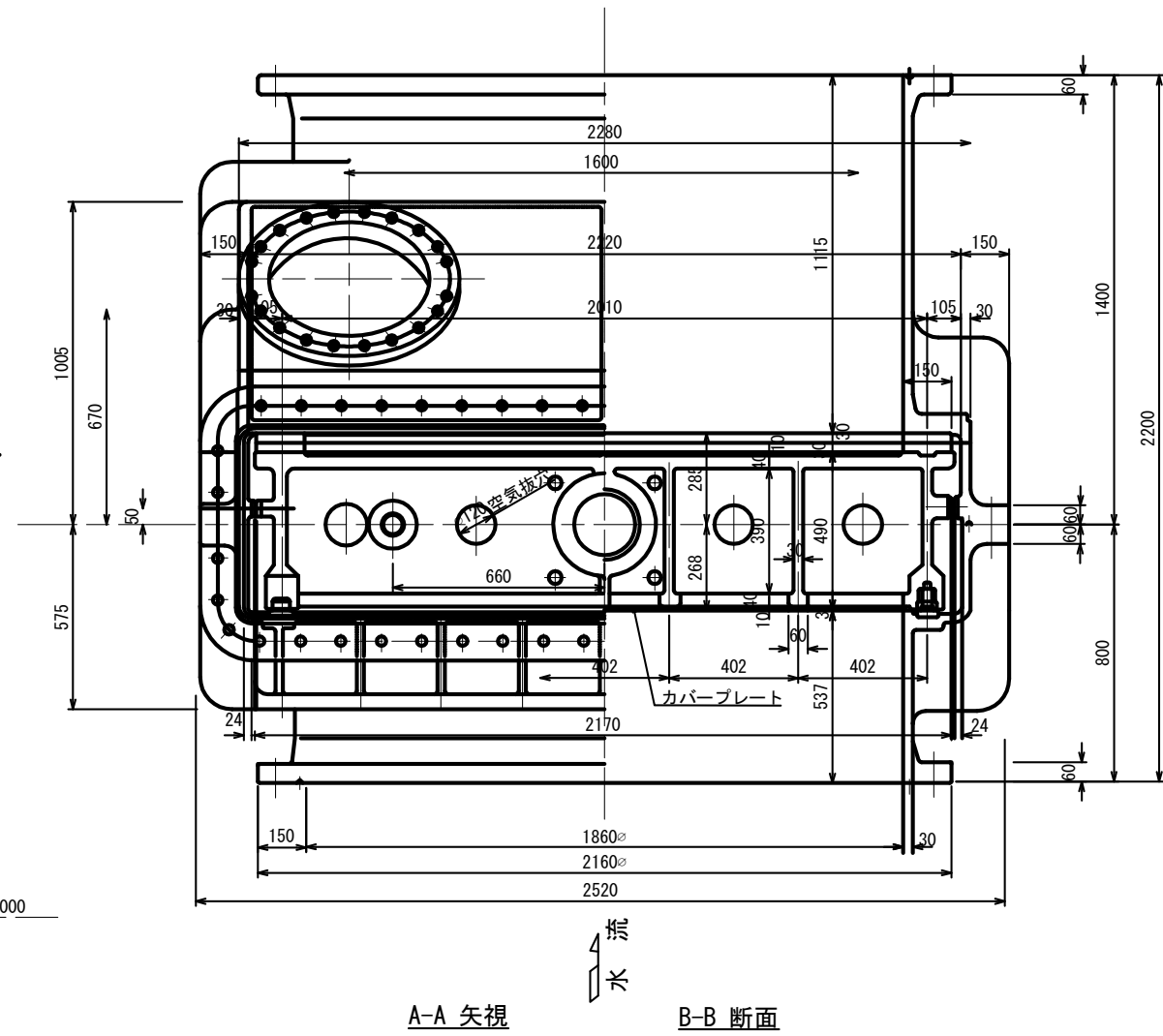
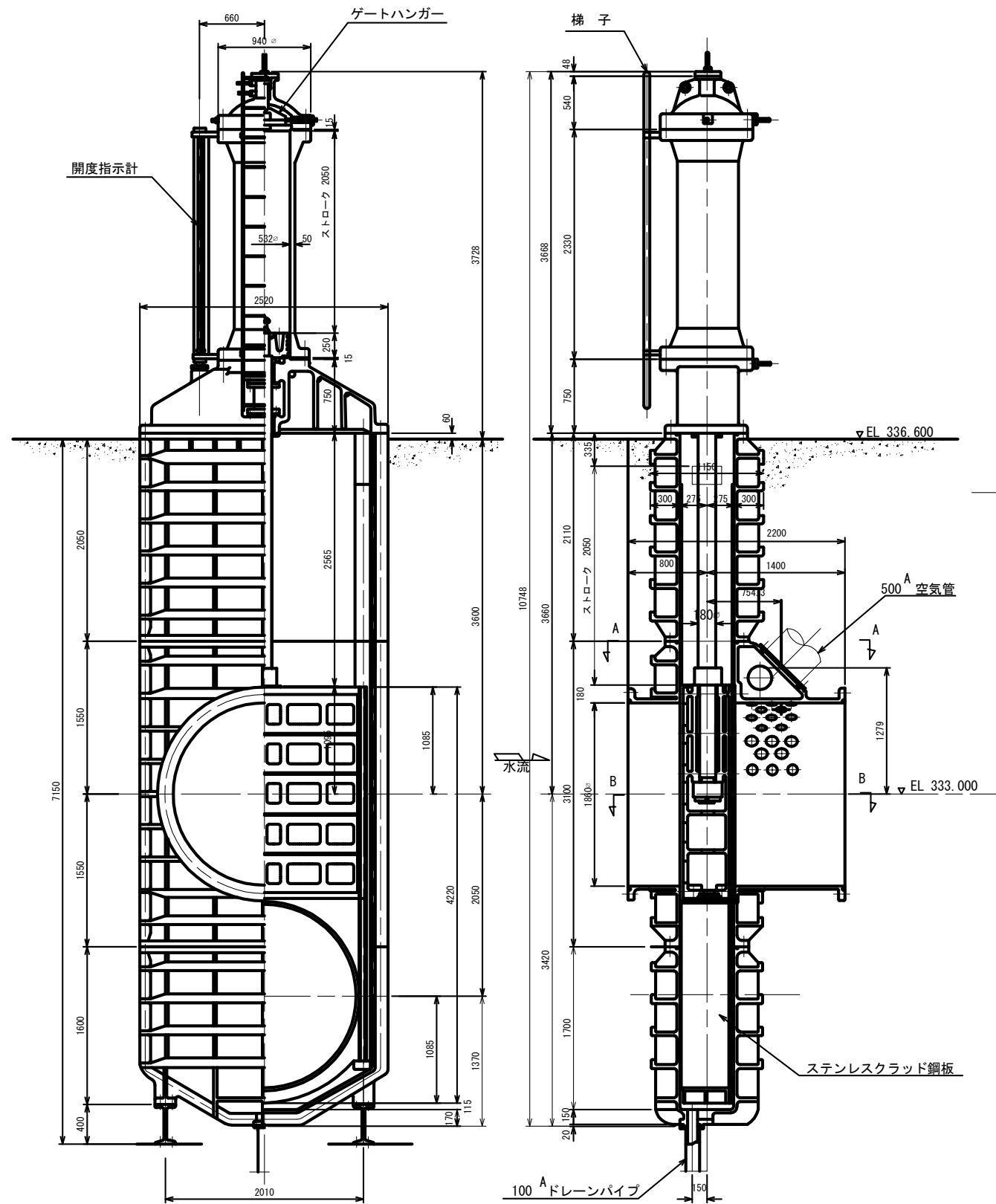


利 水 放 流 設 備 配 置 図

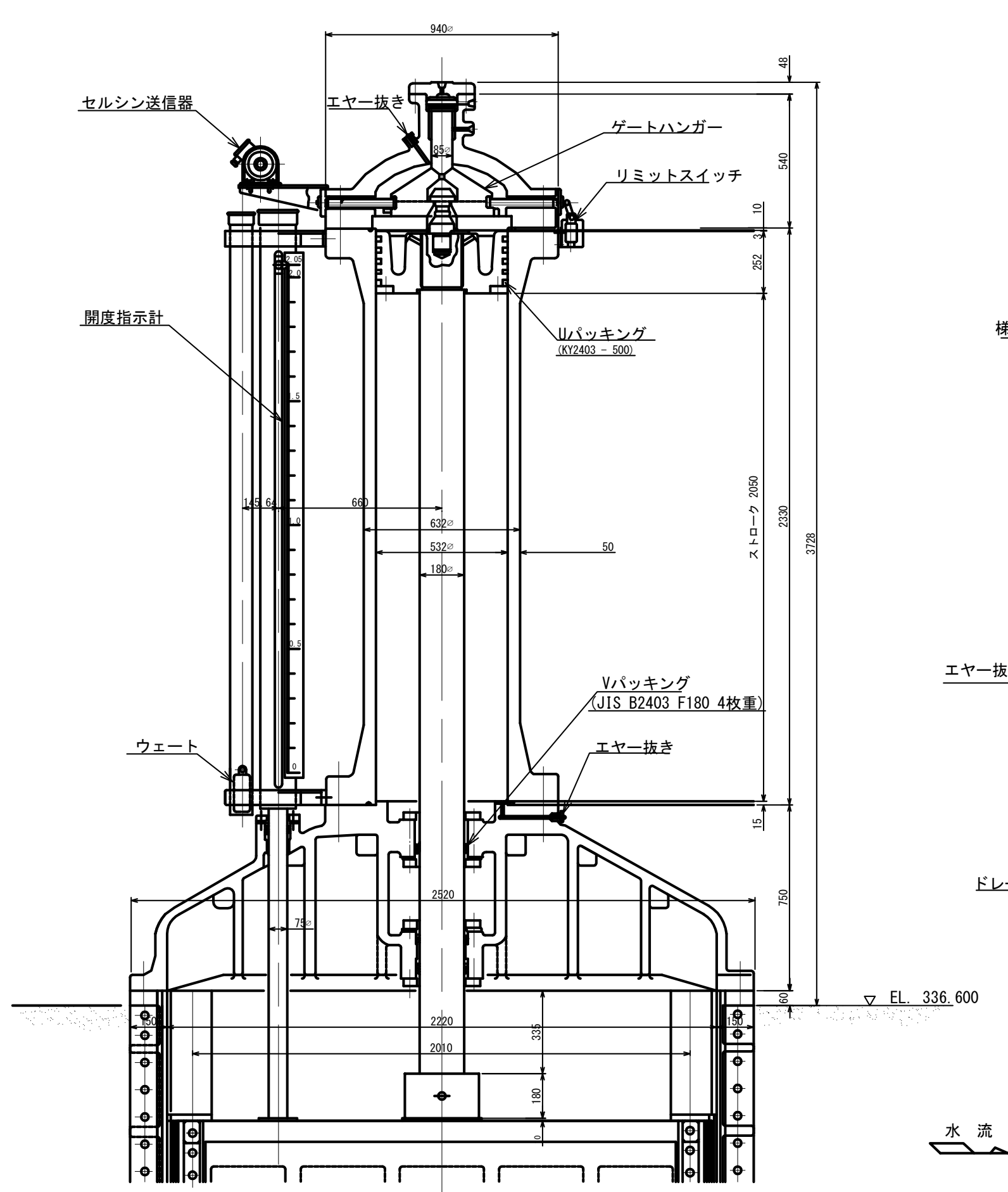


放流管ジェットフローゲート構造図

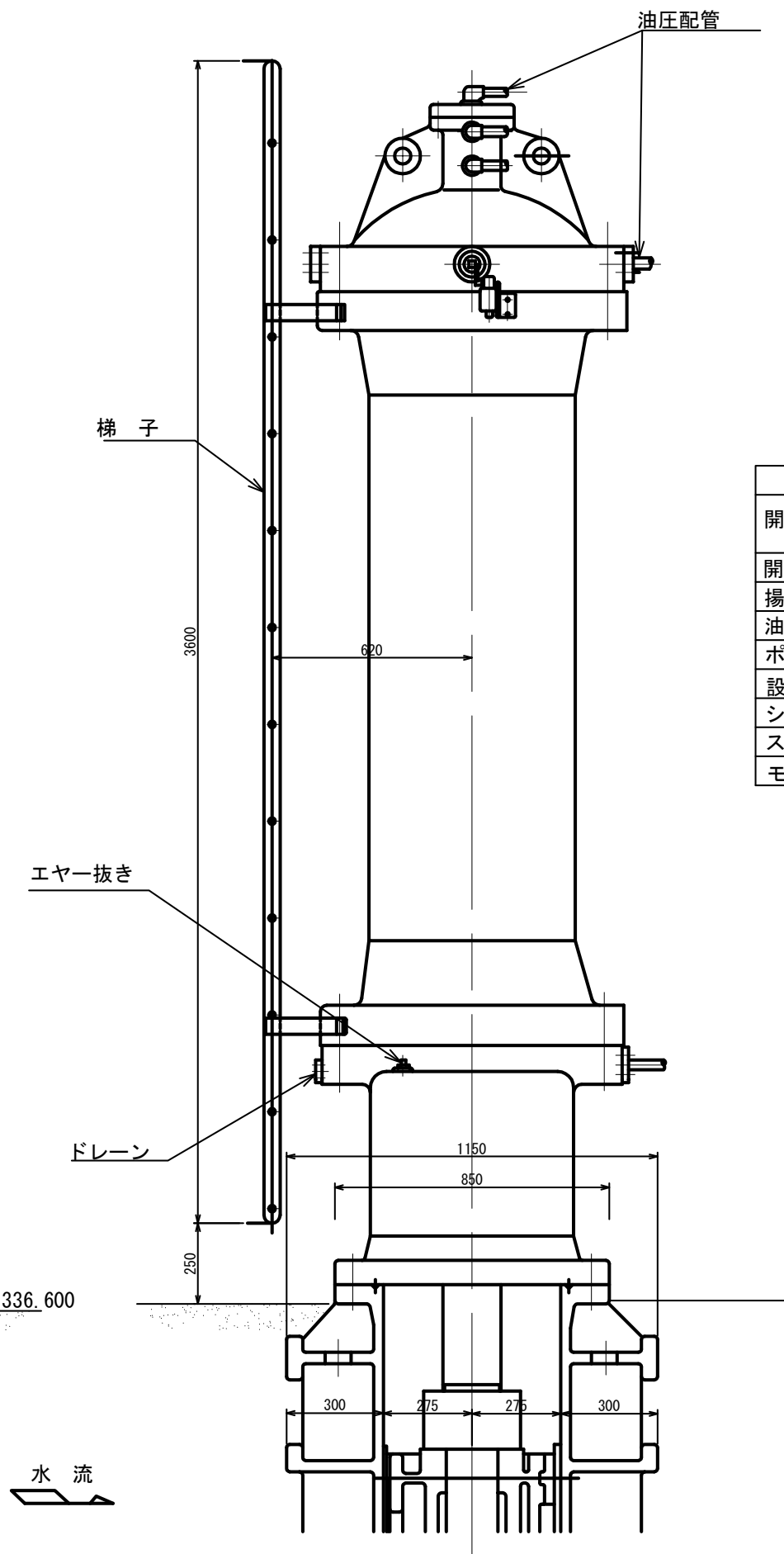




放流管リングホローゲート構造図



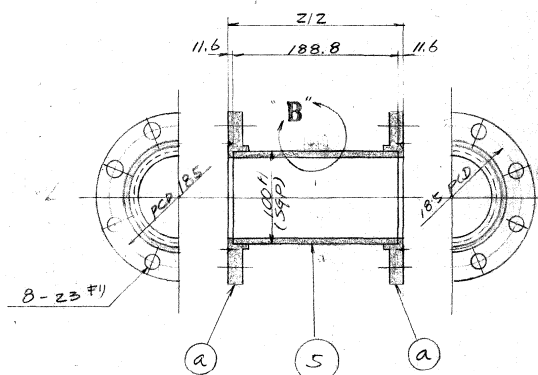
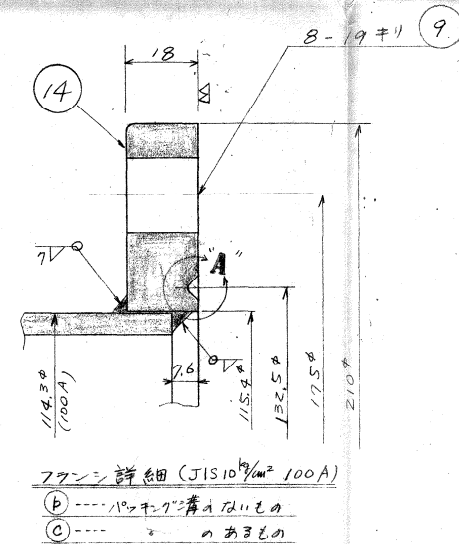
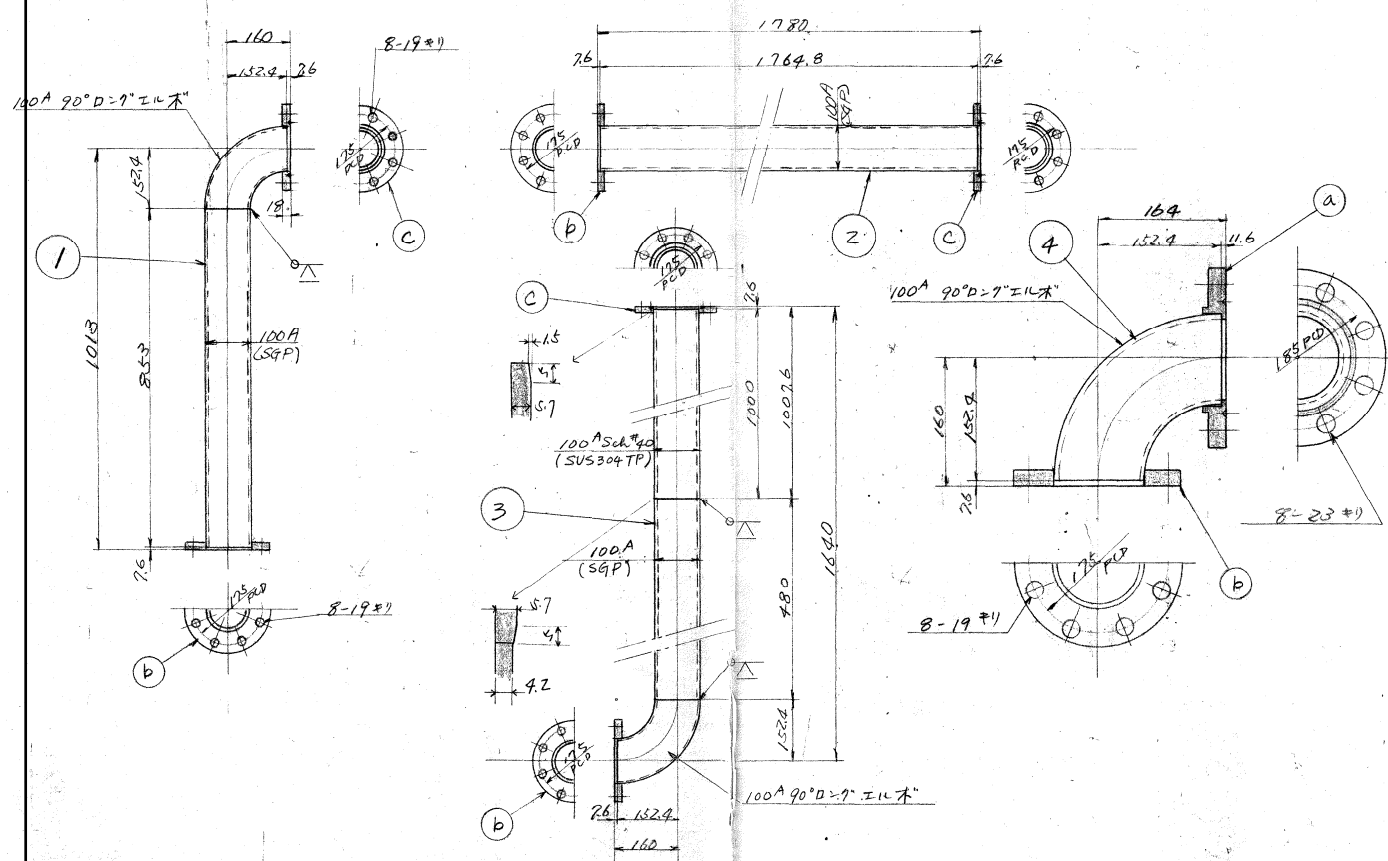
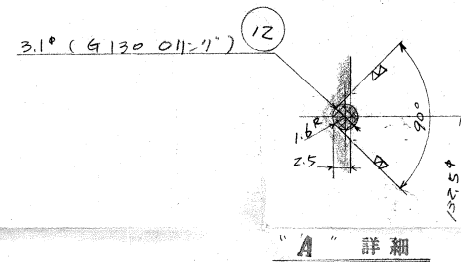
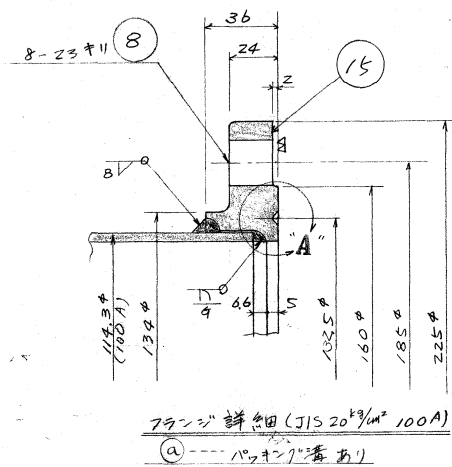
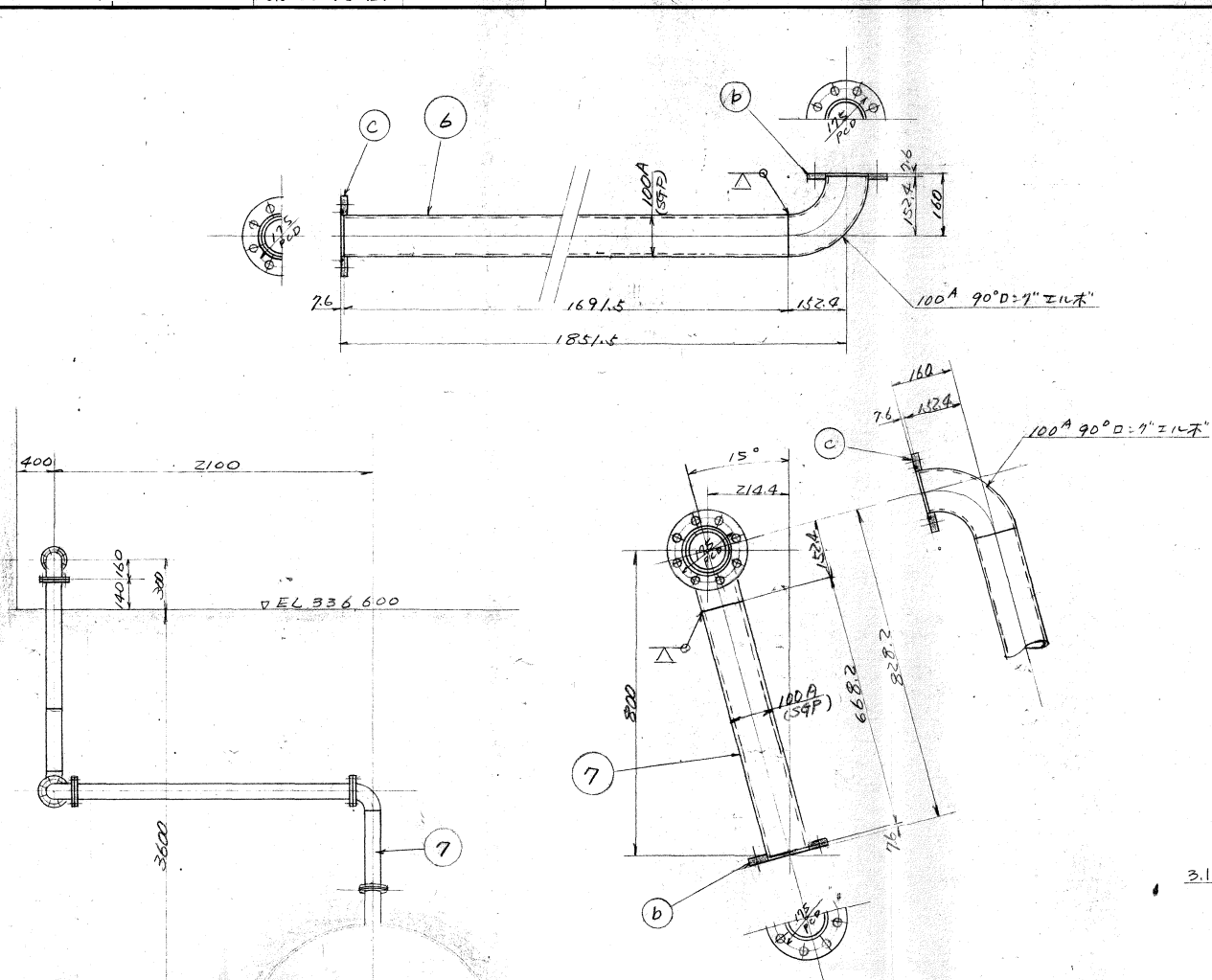
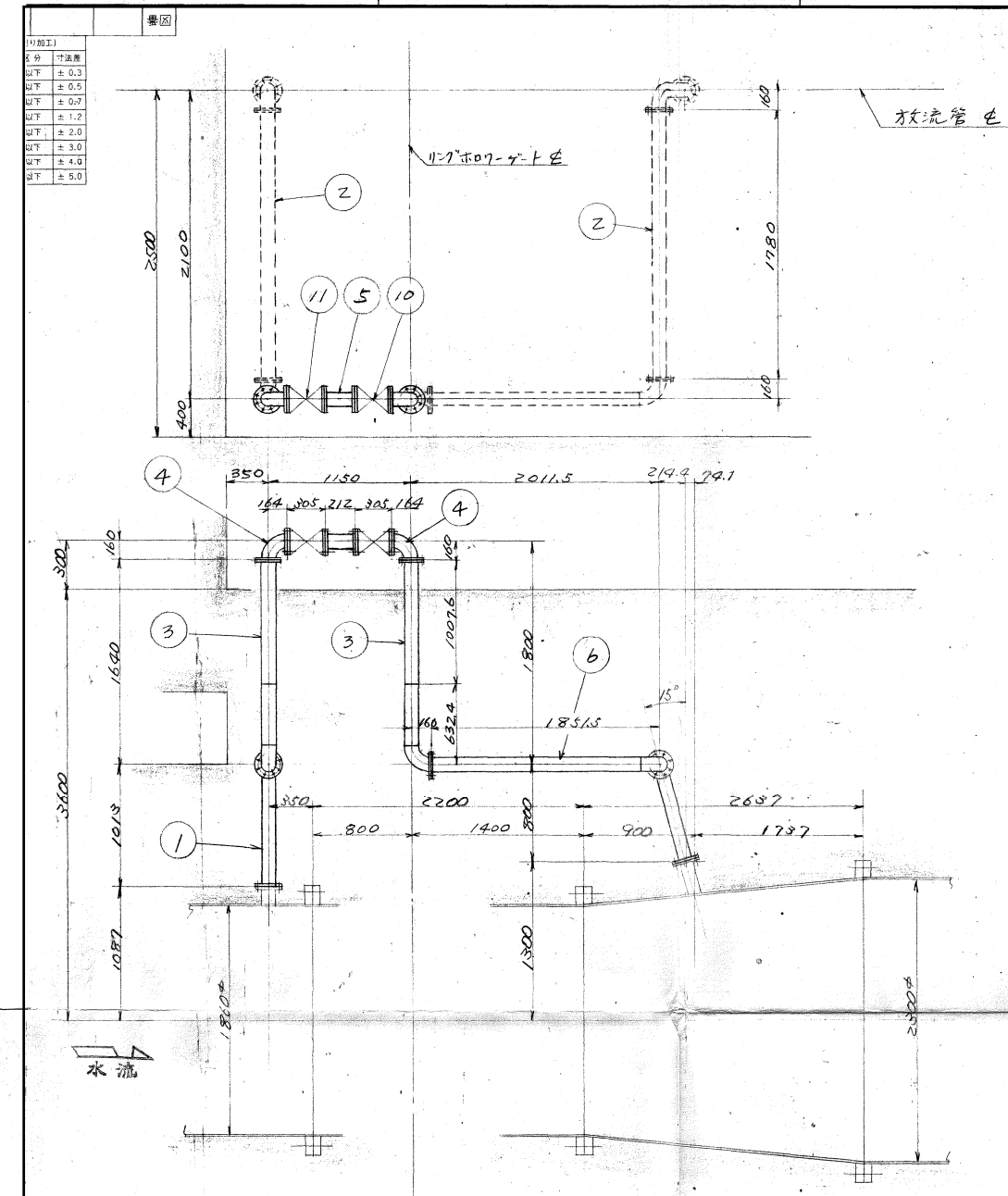
水流



開閉装置要目表	
開閉荷重	開時 217.5 ^t
	閉時 153.0 ^t
開閉速度	0.2 m/min
揚程	2.05 m
油圧ポンプ	2段型ベーンポンプ
ポンプ最高圧力	140 kg/cm ²
設計圧力	112 kg/cm ²
シリンダー内径	532mm ϕ
ステム外径	180 mm ϕ
モーター出力	11 kw



放流管リングホローゲート開閉装置組立図

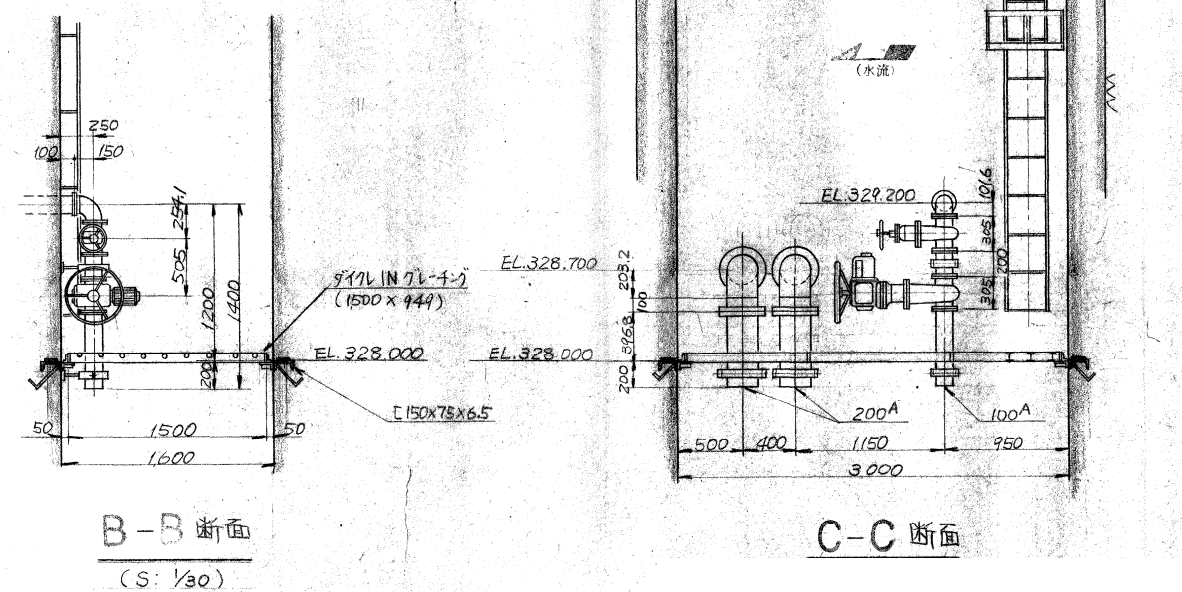
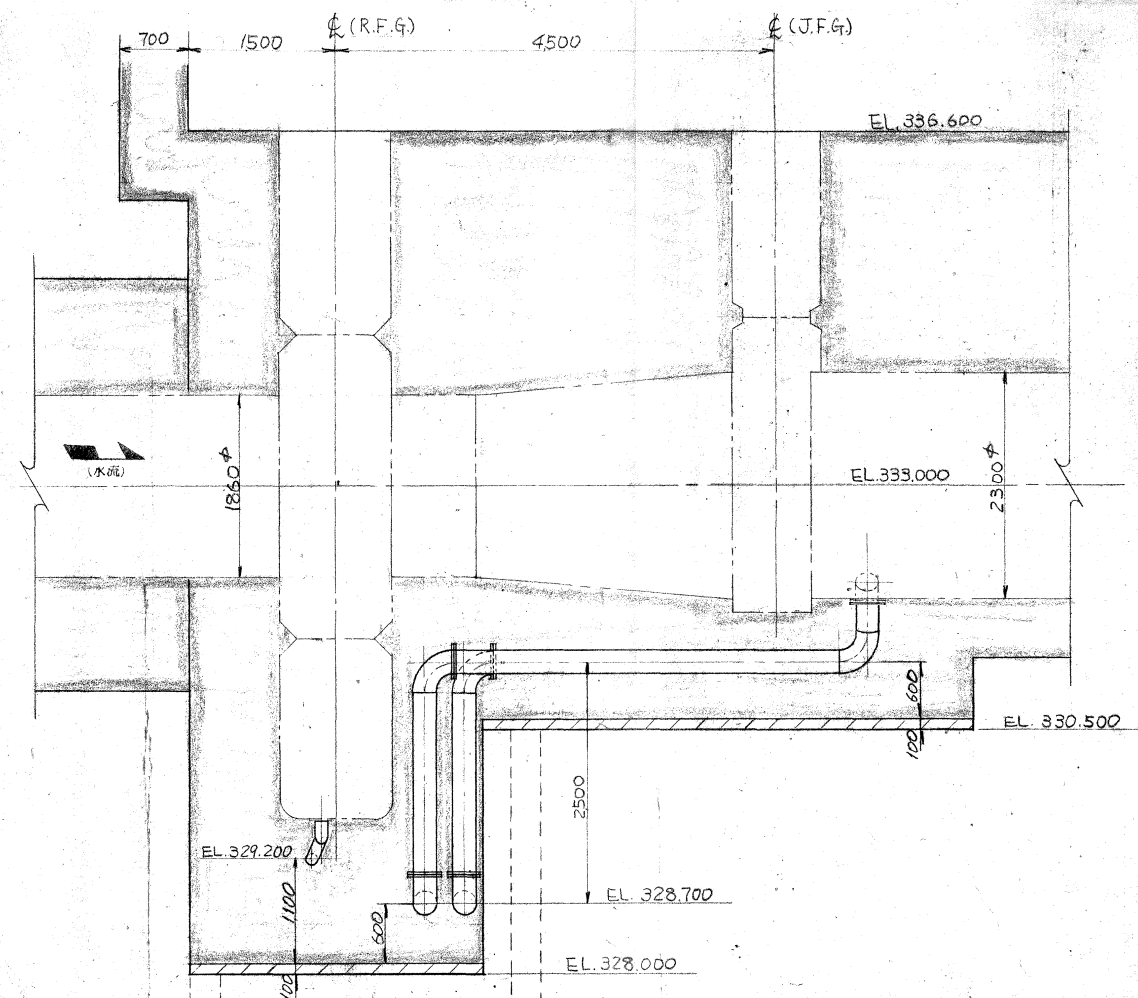
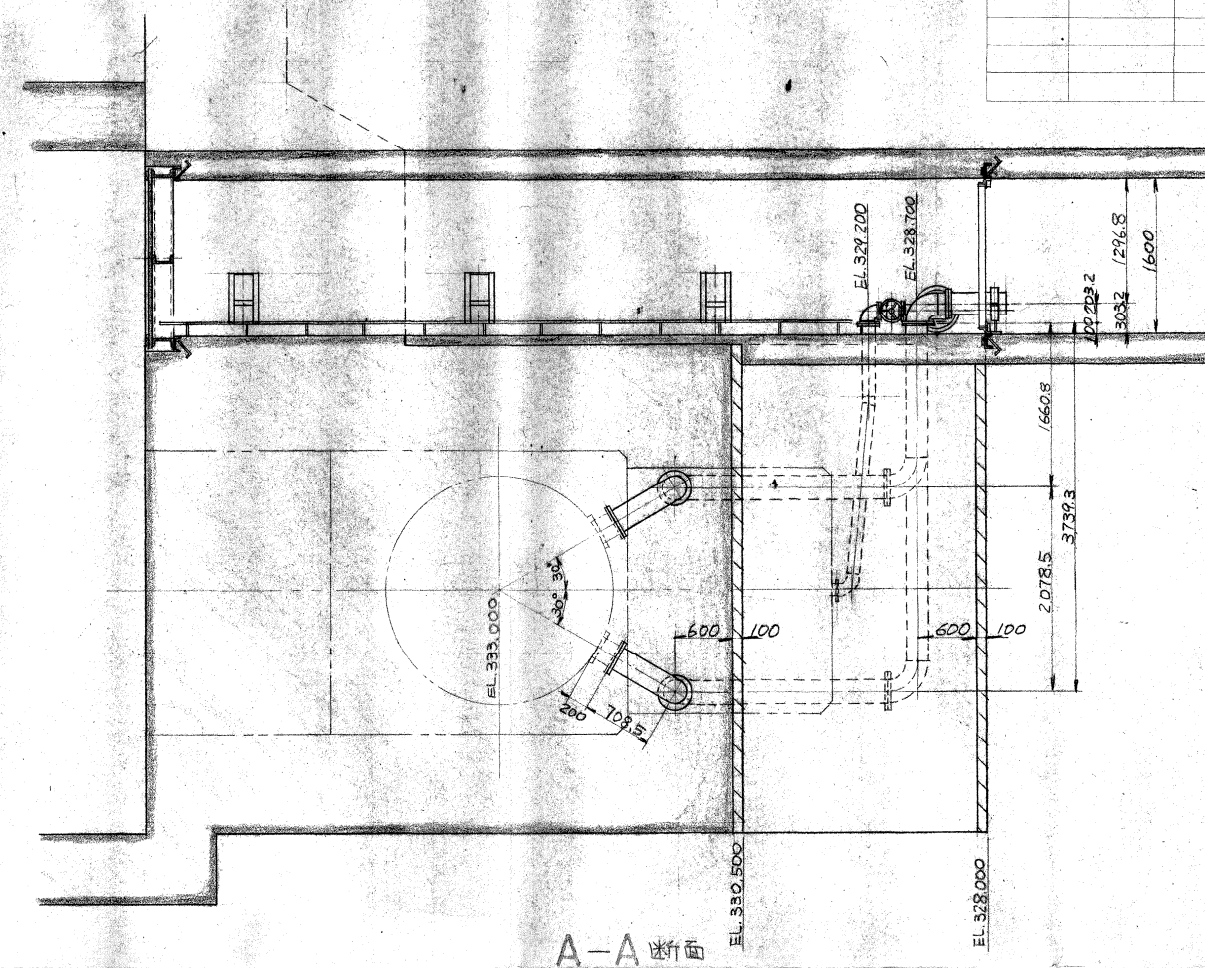
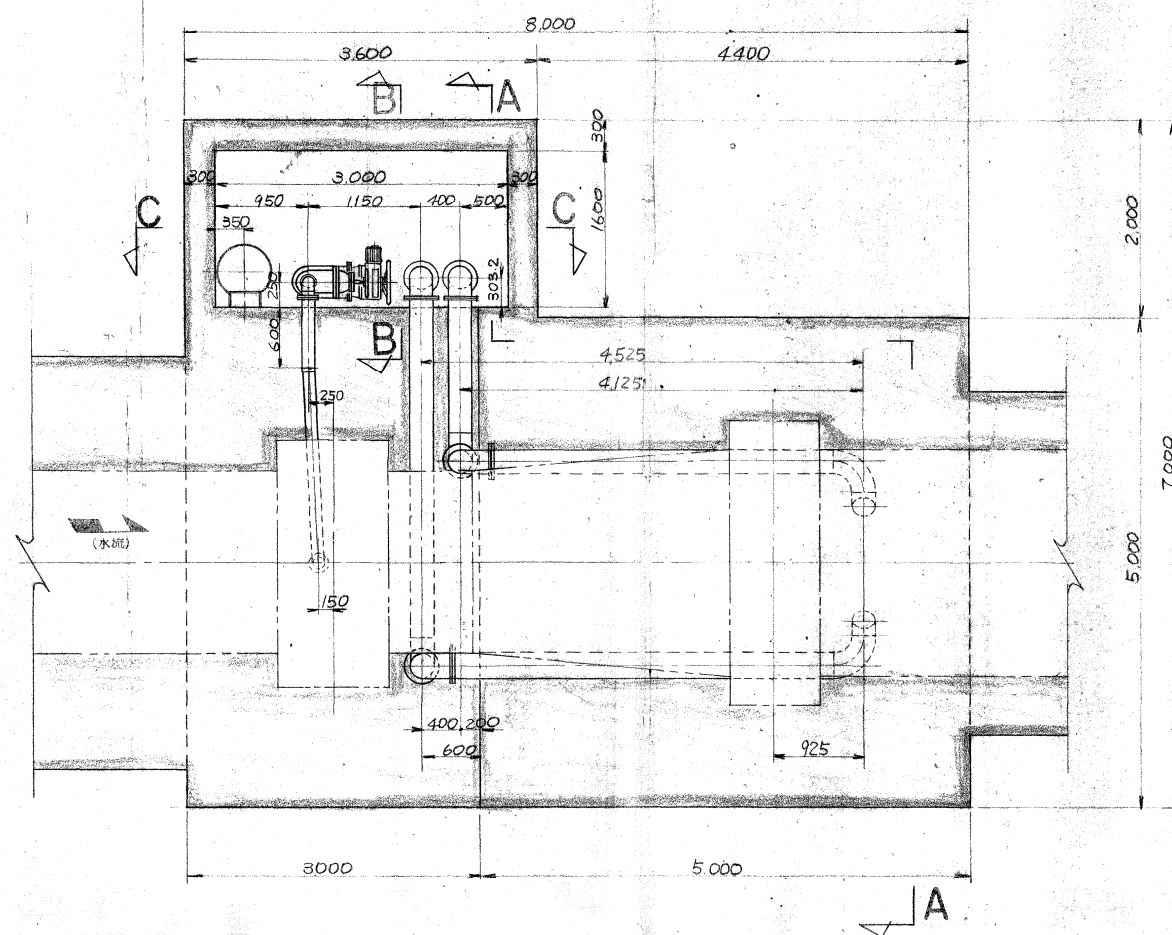
[illegible]

パイプ及びフランジはステンレス部を除き亜鉛メッキのこ

ナフ	15	〃	SS41	JIS10K	4
ナフ	14	差込溶接フナシ	SS41	JIS10K	16
ナ	12	〇リ=7"	市販品	9130	11
ナフ	11	パイパス副バルブ	SC	100 ^φ 電動 20 ^{kg} /m ² 片テ=10	1
ナフ	10	パイパス主バルブ	SC	100 ^φ 電動 20 ^{kg} /m ² 片テ=10	1
ナ	9	六角ホルトナット	SS41	M16×60 ^φ (30 [°])	72
ナ	8	六角ホルトナット	SS41	M20×75 ^φ (35 [°])	32
ナフ	7	パイパス管	SGP	100A	1
ナフ	6	〃	〃	〃	1
ナフ	5	〃	〃	〃	1
ナフ	4	〃	SGP	〃	2
ナフ	3	〃	305 ^φ 304TP SGP ^φ 40	〃	2
ナ	2	〃	SGP	〃	2
ナフ	1	パイパス管	SGP	100A	1
製作 作業	符号	名称	材質	摘要 (製品番号)	個数

"B" 詳細

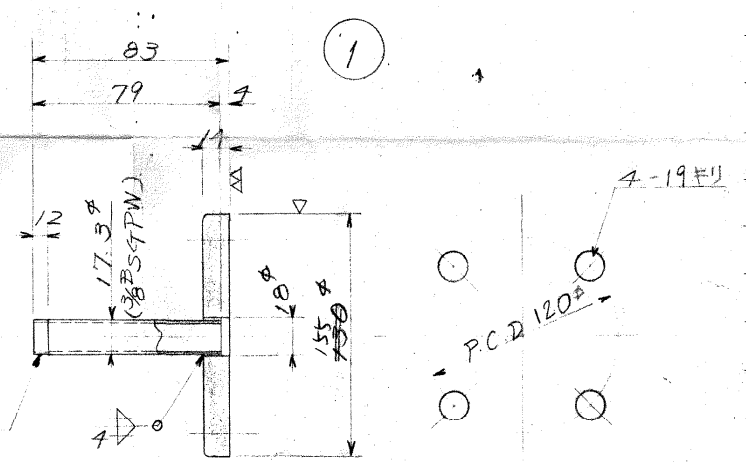
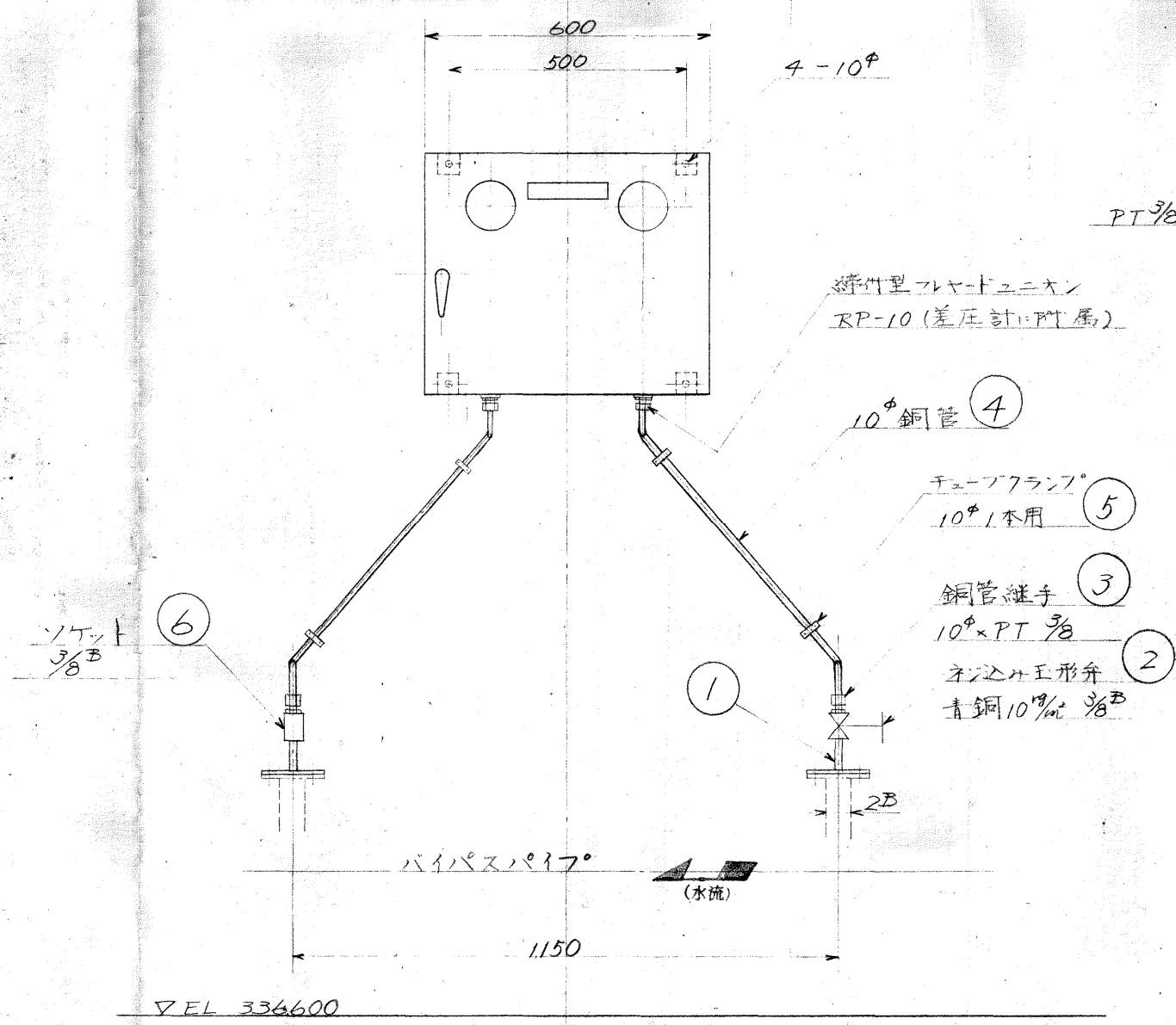
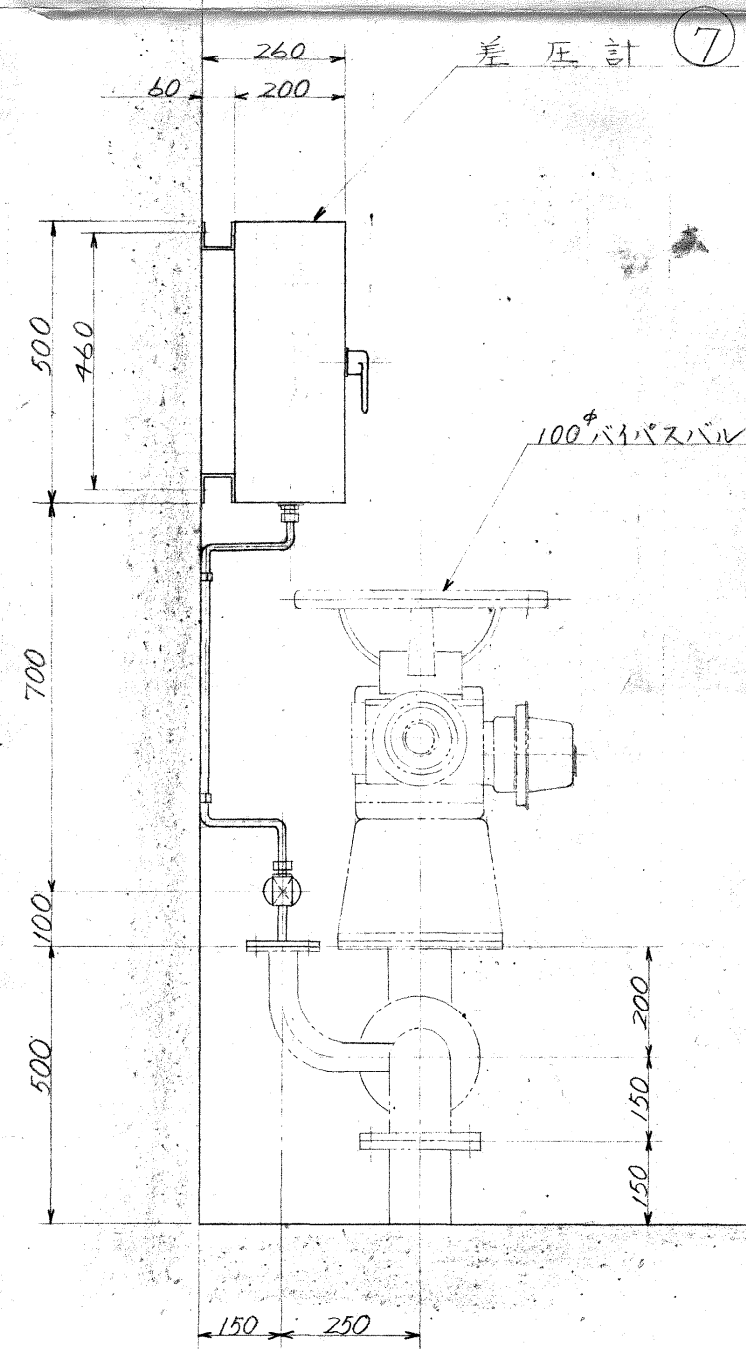
充水バルブ構造図



ドレンバルブ配置図

寸法差
± 0.3
± 0.5
± 0.7
± 1.2
± 2.0
± 3.0
± 4.0
± 5.0

製作番号	注文主	製作数	摘要	年月	担当
G74-255	中部電力	12			



部	号	名	材	要	数
7	差圧計	市販品			1
6	ソケット	3/8"			1
5	チューブフラップ	10" 1本用			4
4	銅管	10" (1.1) 14"			1
3	銅管継手	10" x PT 3/8"			2
2	ネジ込み形弁	市販品 青銅 10" 3/8"			1
1	導水管	3/8" PT 3/8"			2

差圧計バルブ配置図

符号	訂	正	記	事	年月